

コンサルタントの現場から

第120回

(株)ジェムコ日本経営 高橋 功吉

「コンサルタントの現場から」のコラムは、コンサルタントがコンサルティング等の現場で見聞きしたことの中から、参考になるのではないかと四方山話を綴ったものです。

現地化加速の重要性

以前から、グローバル事業を推進する上で、現地化の必要性については何回も述べた。今回は、価格競争に巻き込まれずにグローバルに事業を拡大していくためにはという視点で、文明商品と文化に根差した商品開発を例に述べることにする。

文明商品とは

筆者はよく文明商品と文化に根差した商品という話しをする。筆者が文明商品

と呼んでいるものは、文明の利器という言葉に表されるように技術によって便利さをもたらした商品のことだ。スマホやパソコン、またテレビ等はその代表だ。より便利なものが求められるのは世界共通であり、便利さを追求した文明商品は言語や電圧等は違っても基本仕様は世界共通だ。それだけマーケットも大きい。しかし、文明商品は、ある程度の性能が整えば、世界共通商品なのでいかに

大量に安く作るかが勝負の商品になる。性能が向上している間は、価格は維持されるが、顧客が求めるレベルの性能を実現してしまうと価格競争に陥るのが文明商品の特質であり、グローバルでの戦略は、いかに安く作るか、そのためにどこで作るかが重要ということになる。最終、価格競争に勝てないと、事業撤退ということになりかねないのが文明商品ということだ。

文化に根差した商品

それに対して、文化に根差した商品は価格競争に陥りにくい。文化はそれぞれの国で異なる。商品の価値はどれだけ文化に根差した商品にできているかで評価される。

例えば、食文化の代表と言えるご飯をとりあげてみると、日本ではおいしいご

<執筆者プロフィール>

高橋 功吉

(たかはし こうきち)

(株)ジェムコ日本経営
常務理事 グローバル事業担当



大手家電メーカーにて、海外経営責任者などの要職を歴任後、ジェムコ日本経営に入社。2007年執行役員、2011年取締役、2015年6月より現職。上場企業経営トップおよびボードメンバーへの顧問型経営支援をはじめ、グローバル戦略の構築から、製造現場の現場力向上、品質革新など、経営全般にわたり幅広く活躍している。実践に裏打ちされた「わかりやすい」コンサルティングが身上。「ものづくり経営入門」(日経BP)他、雑誌や媒体への執筆、講演も多い。

主な資格は、ICMCI(国際公認経営コンサルティング協会)認定コンサルタント、公益社団法人全日本能率連盟認定マスターマネジメントコンサルタント、経済産業大臣登録中小企業診断士

飯の炊き方のバイブルは昔のかまどで炊いたご飯である。炊き方は、それぞれで若干言い回しが異なることがあるが、「はじめチョロチョロ中ッパ、ぶつぶつ言う頃火を引いて、赤子泣くとも蓋とるな。そこへば様とんできて、わらしべ一束くべまして」という火加減と共に、釜全体が加熱される構造という話だ。科学的に見ても、日本の短粒種の米にはこの加熱方法は理にかなっている。はじめにゆっくり加熱することで十分お米に吸水させ、その後一気に加熱してα化するために必要な温度に上げて高温を維持することで甘みのあるおいしいご飯になる。加熱方法と共に、何万粒もある米粒すべてに熱を伝えるためにどう対流させるか、そのための釜の加熱構造が追究されてきた。その結果10万円もする炊飯器が認められているという話だ。さらに日本の食文化を熟知していない海外メーカーが日本の市場に参入するのは極めて難しいというのが現状だ。

な短粒種は世界の中ではごく一部だ。在タイの皆さんもよく食べられているタイ米に代表される長粒種となると炊き方は全く違う。長粒種は水の吸水が早いから、水に浸けておくとベタベタした炊き上がりになってしまう。食方は皆さんもよくご存じのように、ご飯の上に少しづつおかずをとって一緒に食べる。そのためべちゃついたり飯ではおいしくないので、それだけに、水に長時間浸けておくことになるタイマーを使用した炊飯は一般的な使い方ではなかったということになる。また、日本では白米のみを食べてそのおいしさを味わうので、そこにご飯以外のにおいがつく、それだけでまずいご飯ということになる。当然のことながら、炊飯器はご飯だけを炊くものという話だ。しかし、タイのように、おかずを一緒に食べるといふ食文化をされている国では、それほどまでにご飯のにおいは気にならない。そのため、ご飯以外のものも調理できるということは一つの魅力になる。

器はタイで生まれた商品だが、それは食文化が異なることから生まれたということだ。インドなどでは、すでに20年以上前から鍵付きの冷蔵庫が当たり前だった。ようやく日系メーカーも鍵付きになったが、以前は日本と同じ仕様の冷蔵庫をインドで販売していた。その市場で事業を伸ばすためには、真にお客様に喜んでもらえる商品を開発することが必要不可欠であり、そのためには、日本の仕様を押し付けるのではなく、その国の生活文化に根差した商品を開発できるかが最も重要なことだ。

グローバルに大きく成長してきた韓国企業は、インドでの鍵付き冷蔵庫に限らず、蚊取り機能付きのエアコンやメッカの方向がわかる携帯電話をはじめ、各国の生活文化や宗教を踏まえた商品を開発してきた。それが大きな成長を果たすポイントだったと言える。

企画・開発の現地化

文明商品は、ほと

【第5面に続く】



弁護士 岡田 一三
東京弁護士会所属

海外にお住まいの日系の皆様のお手伝いを30数年行っています。皆様がタイにいなから問題の解決ができます。

相談 無料 事案解決 成功報酬

日本での相続、不動産、介護問題のご相談・解決のお手伝いをさせていただきます。

お気軽にご相談ください

弁護士法人岡田綜合法律事務所

事務所:東京都中央区京橋2-5-22 キムラヤビル3階

電話:03-3564-5555 FAX:03-3564-6559

E-mail:ichizo.okada@tiara.ocn.ne.jp

<http://japanese-law.com>

【第4面から続く】

などが世界共通仕様なので、どこで企画・開発しても、どこで生産しても同じだ。しかし価格競争中心の文明商品で成長を目指すのは極めて難しい。そうなる文化の認められる文化に根差した商品や

サービスの開発は極めて重要ということになる。真に、文化に根差した商品、その国や地域に根差した商品やサービスを開発していくためには、日本人が考えるのは難しく、企画や開発の現地化が必須だ。企画や開発のやり方を

教えて現地化することが大切だ。グローバルでの成長の鍵は現地化

経営の現地化について、その国で事業をしていくために現地事情を踏まえた舵取りという視点で、現地事情を一番よ

くわかったメンバーが経営を担うことが望ましい。能力のあるローカル人材のやる気の醸成と共に定着化にもつながる。将来のグローバルでの事業の成否は、どれだけ真剣に現地化の取り組みができているかということにかかってくる。出

向者の役割は、現地化に向けてのローカル人材の育成に他ならない。自分が帰任した後に残せるのはローカル人材しかない。本気でどれだけ現地化に取り組みかがグローバルで成長していくための鍵になるのではないだろうか。

企業情報、掲載します 新製品・サービスなど

企業情報を掲載させていただきます。掲載ご希望の企業の方は下記までご連絡ください

バンコク週報 info@bangkokshuho.com

バンコクねじ大学

阪神ネジ(タイランド)代表 山里憲二郎

第2回

「恐怖!ねじの頭が飛んでしまう?」

みなさま、こんにちは! 第2回はねじにまつわる問題の中で一番と言って良いほど厄介な問題「ねじの頭飛び」についてです。これは正常なトルクでねじを締めつけているにもかかわらず、あるいは締めすぎに、あるいは締めすぎた時にねじの頭が根本で破壊されてパナツと頭が飛んでしまうという恐ろしい現象のことです。

この現象が起こるとねじ部だけが製品に残ってしまい取るのが一苦労。最大の恐怖は自社工場内の製造時は何ともなく、お客様へ納品後

に発生することであり、これを経験された方は「ねじ恐怖症」になってしまふことが少なくないかもしれません。スバリこの頭飛びは、「水素脆性(すいそせいせい)」といふものが最大の原因と考えられます。それは鋼の組織の中に水素が入り込み鋼の強度を脆くさせてしまう現象のことです。六角穴付きボルトや高力六角ボルトなどの高強度のボルトを亜鉛メッキする際に気を付けなければならぬ問題です。ボルトやナットをメッキする際には、前工程で酸洗

等を行います。その際に発生する水素ガスが鋼の内部に入り込み、空洞のようなものが組織内に出て、鋼の強度を落としたり、脆くなった

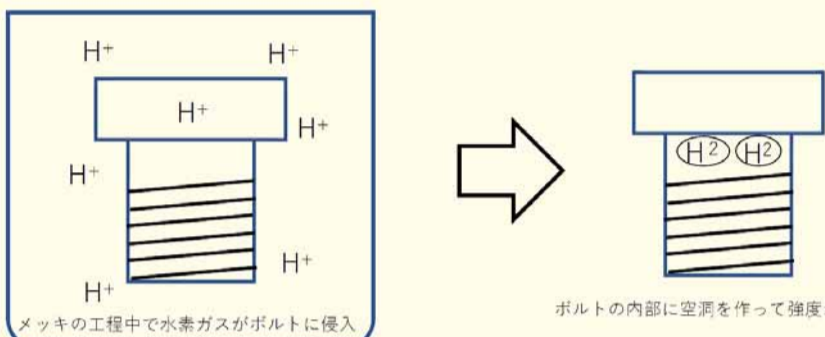
りしてしまふのです【図1】。そのため、本来の強度が出ず適切なトルクを掛ける(軸力が掛かる)と耐えられなくて頭が飛ぶという現象に

つながるのです。ではどのようにすれば解決するのでしょうか? それは亜鉛メッキを施す際にベーキング処理を行うことで解決します。ベーキング処理とはメッキ後すぐに200度くらいに加熱し水素を逃がす処理のことです。これをする事で期待する正常な強度、硬さが出るようになります。ただし、強度区分12・9以上のボルト(例えば、黒染の六角穴付きボルトなど)はベーキング処理をしても水素が逃げにくく水素脆性の危険性は除去できませんので絶対にはいけません。

水素脆性のこと、日本ではねじメーカーや卸商社に入社したら誰しもが学び、周知徹底されていることですが、タイではまだまだ周知されておらず12・9と刻印されたメッキの六角穴付きボルトも市中でかなり出回っておりアチコチでボルトが折れるということが発生しているのも事実です。それはボルト自体の品質というよりもこの「水素脆性」が問題かもしれません。もし、ねじの頭が飛ばし飛ぶというこ

とであれば一度工場をボルトをご確認頂き、安心したモノづくりをして頂けたら幸いです。

図1



メッキの工程中で水素ガスがボルトに侵入

ボルトの内部に空洞を作って強度が落ちる



【筆者略歴】 1978年生。大阪府出身。2004年阪神ネジ入社。07年に米国ねじ展示会を視察したことで「日本のねじの素晴らしさ」に気づき「世界のモノづくりに日本の技術で貢献したい」との思いが芽生える。15年阪神ネジタイランドを設立。代表に就任し現在2期目に入る。

铸造メーカー様 (2016年竣工) チョンブリー県



電子機器メーカー様 (2015年竣工) ナコンパトム県



自動車部品メーカー様 (2014年竣工) サムットプラカーン県



タイでの工場建築・増築・設備に経験豊富な日本人が全力でサポート!

提案力かつローコストが強み! 工場内設備・電気設備も一括対応

設計・施工・メンテナンスも一貫して自社社員でフォロー!

タイでの工場建設・増築
お任せください!



お問合せはこちら Tel: 081-991-5078 (杉浦)

E-mail: sugiura.tcc@tcctecnica.co.th

TCC TECNICA CO.,LTD.

(本社)パトナーニ・支拠点シーラチャ 日本人社員6名
122 Moo.20 T.Klongnueng, A.Klongluang,Pathumthani 12120

TCC TECNICA CO.,LTD.
www.tcctecnica.co.th

おかげさまで30年 オフィスの新設、移転、改装なら
オカムラ
Siam Okamura International Co., Ltd.
info@siamokamura.com
私たちがオカムラグループはオフィス構築におけるお客様のあらゆる業務をサポートし、デザイン、家具、内装、設備工事、アフターフォローにいたるまで、オフィスづくりのトータルソリューションをご提供いたします。
井上:084-708-0994 (バンコク)
津田:089-060-6248 (チョンブリー)